

RESAS を使った美里町・涌谷町の分析

2025年11月

遠田商工会

<目 次>

はじめに	1
1. 人口増減	2
①美里町	3
②涌谷町	6
2. 将来人口推計	9
①美里町	10
②涌谷町	11
3. 産業構造分析	12
①美里町	13
②涌谷町	14

～はじめに～

この度遠田商工会では、RESAS を活用した「人口増減」、「将来人口推計」、「産業構造分析」について
美里町・及び涌谷町の分析を行いましたので、ご活用ください。

<RESAS とは>

経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が無料で提供する産業構造や
人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムです。

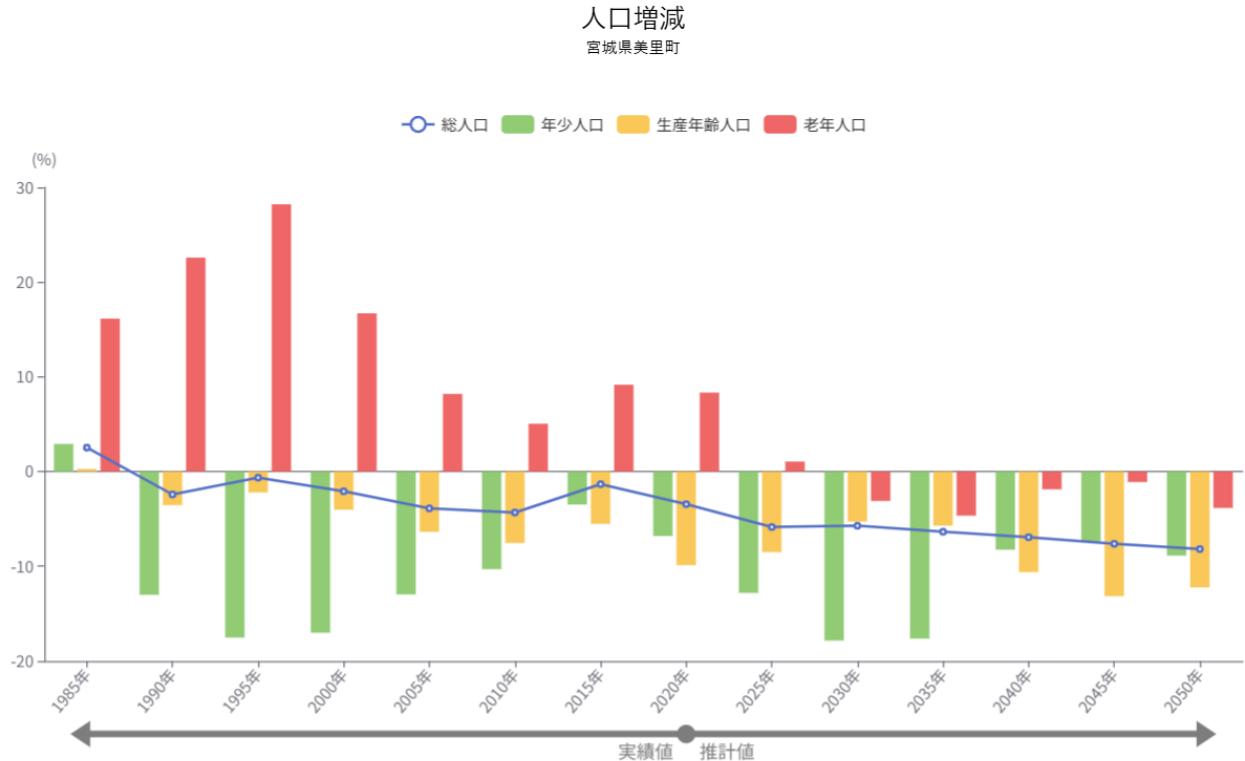
RESAS : <https://resas.go.jp/>

1. 人口増減

＜用語解説＞

- 自然増減・・・死亡数と出生数の差による増減のこと。
- 社会増減・・・転出数と転入数の差による増減のこと。

①美里町



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

人口増減率 = $(A - B) \div B$

A : 表示年を指定する年と指定した年の人口

B : Aの5年前の人口

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。

○全体的に総人口は減少傾向。

○1985年から2020年にかけて老人人口の増加が著しいが、

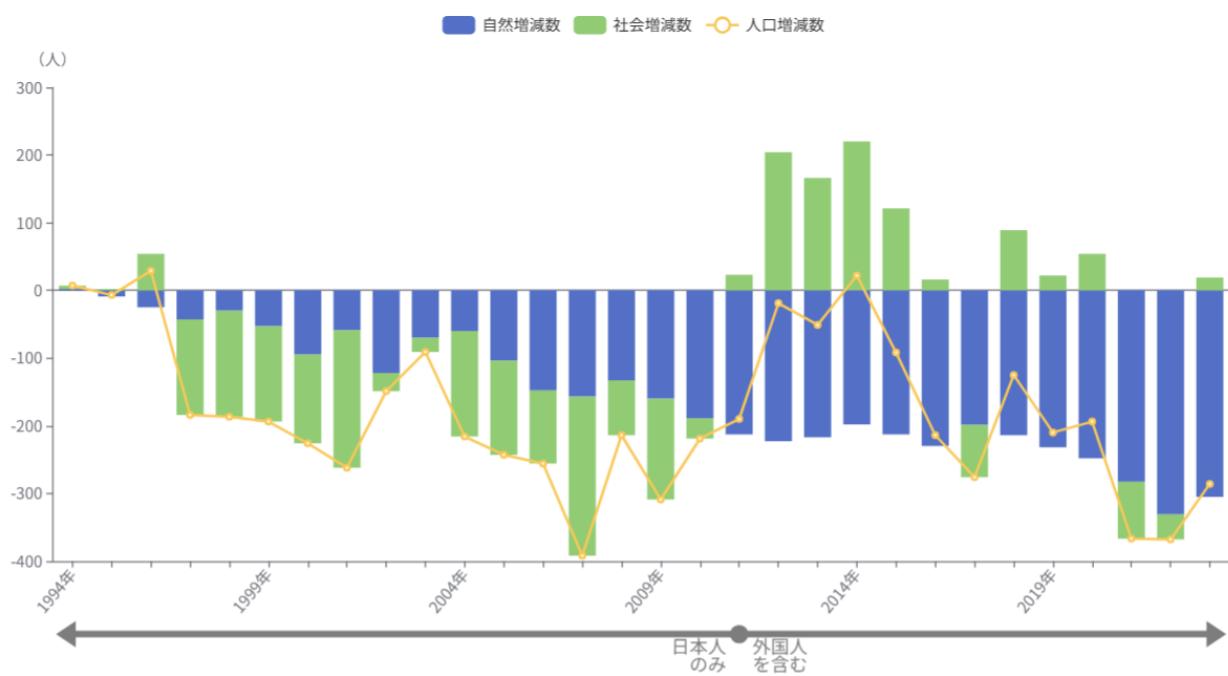
2025年を境に減少へと転じる。

○2010年から2015年にかけて全ての人口が増加傾向にあるのは、

東日本大震災による他地域からの流入によるものと考えられる。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)

宮城県美里町



【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

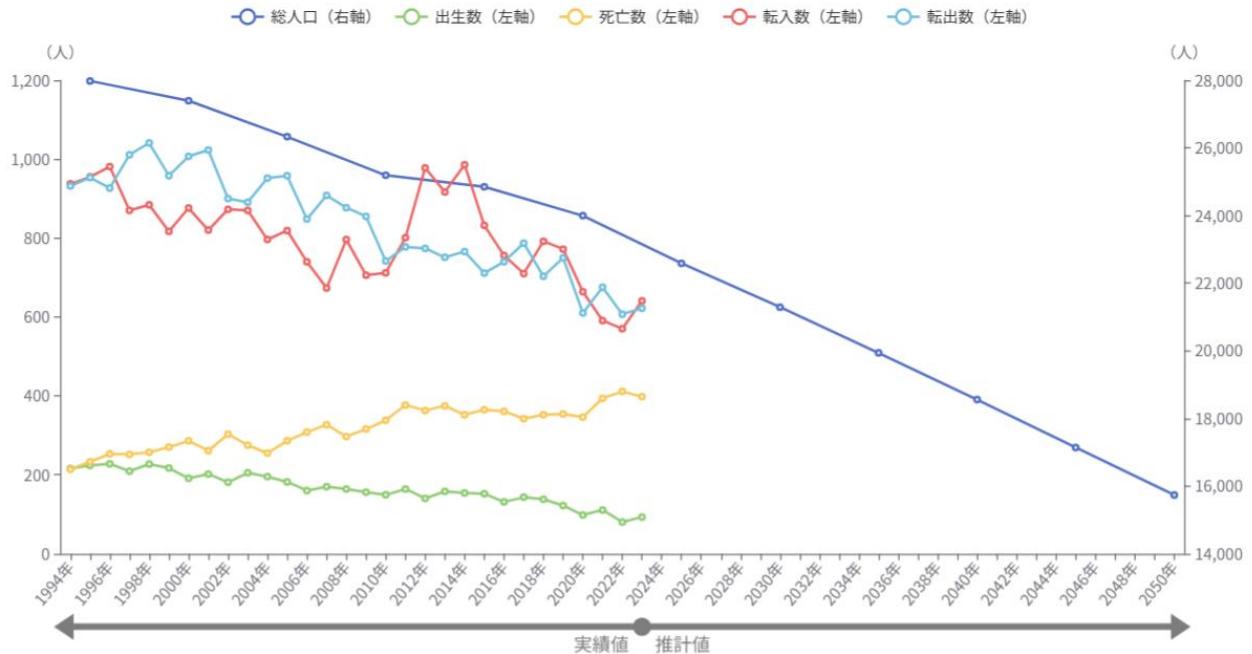
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

○自然増減においては、一貫して減少に転じており、年が進むごとにその数は増加傾向にある。

○社会増減においては、2010年から2015年にかけて他地域からの流入により増加に転じているが、その後はすぐに減少傾向となっている。

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

宮城県美里町



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

人口増減率 = $(A - B) \div B$

A : 表示年を指定するで指定した年の人口

B : Aの5年前の人口

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

本グラフについては他地域を合算することはできない。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

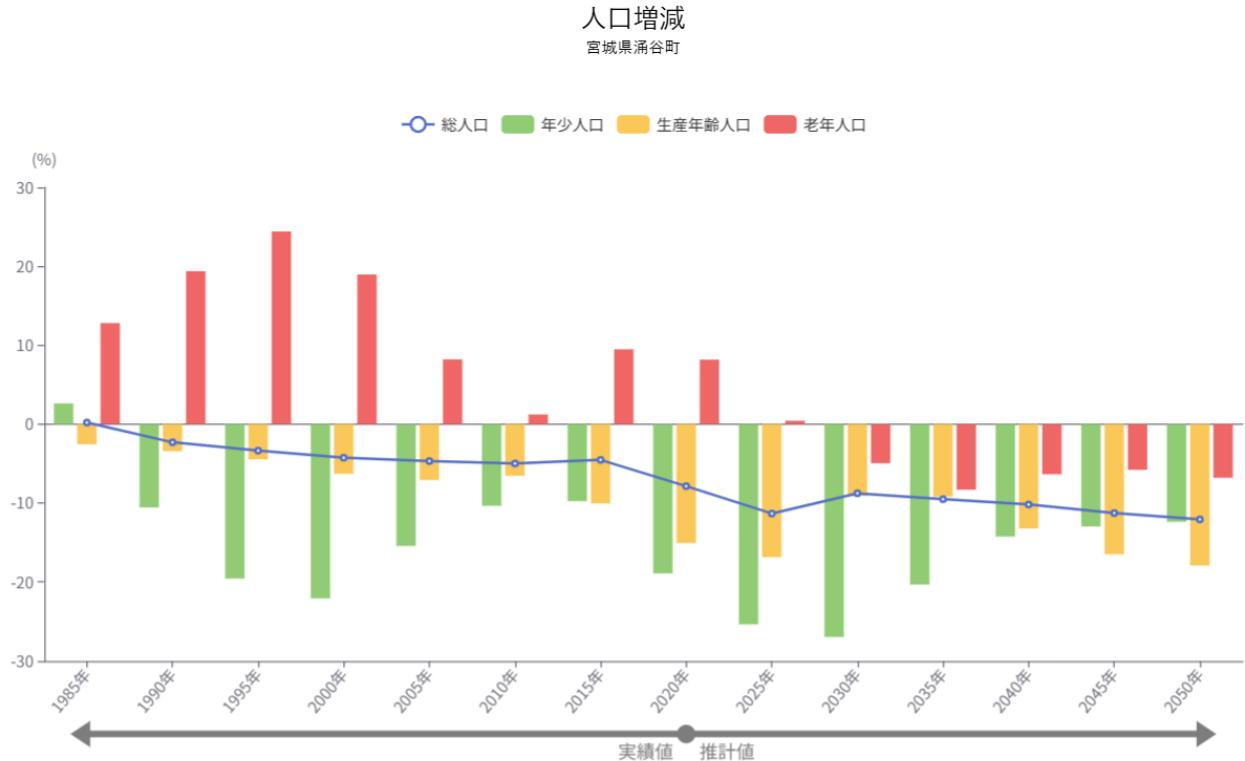
2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する 13 市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。

○出生数の減少と共に死亡数は増加している。

○2010年から2015年にかけて転入数が一時的に増加しているが、
転出数は緩やかに減少している。

○総人口は1994年の調査開始以来、一貫して減少傾向となっている。

②涌谷町



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

$$\text{人口増減率} = (A - B) \div B$$

A : 表示年を指定するで指定した年の人口

B : Aの5年前の人口

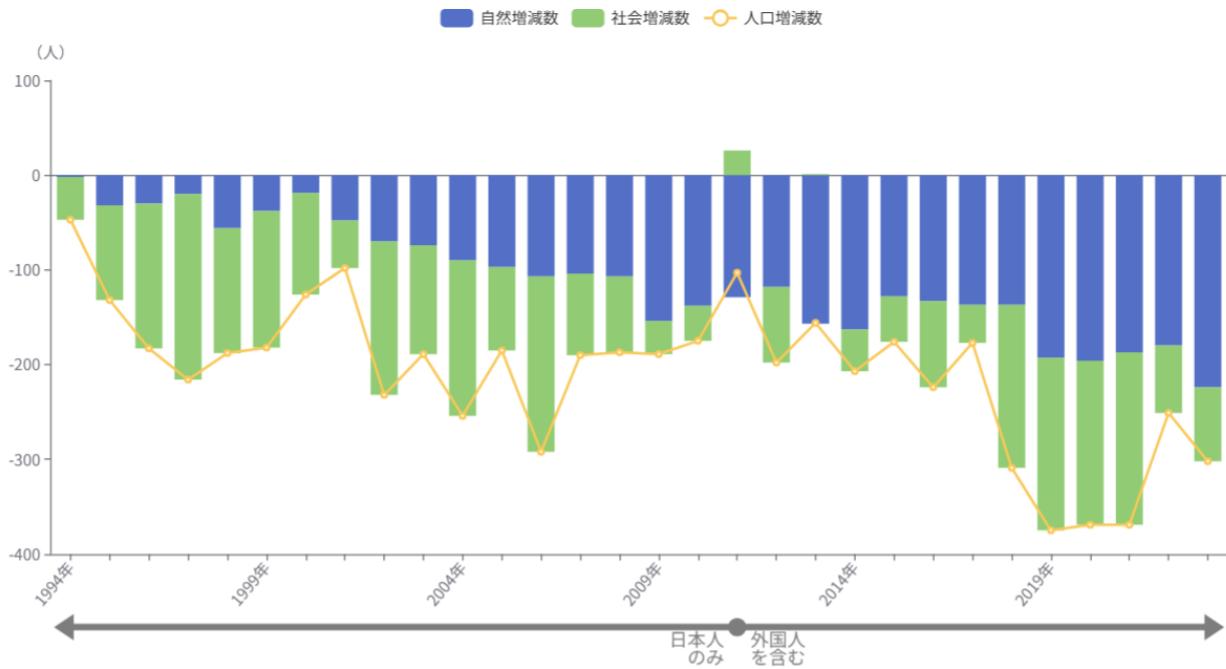
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。

○総人口は1985年の調査開始以来、一貫して減少傾向にある。

○特に年少人口は、今後大きく減少が見込まれている。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)
宮城県涌谷町



【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】

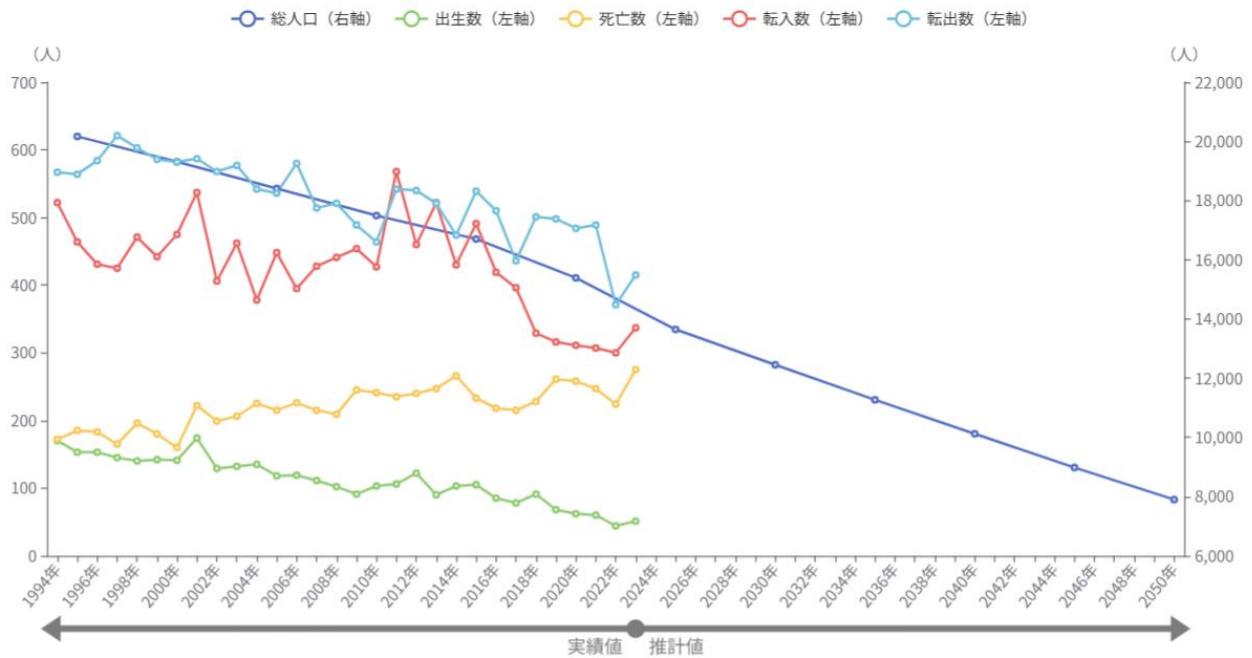
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

- 自然増減、社会増減ともに減少傾向にある。
- 特に2019年から2021年の人口減少が著しい。
- 今後も総人口は減少すると見込まれる。

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

宮城県涌谷町



【出典】

総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
【注記】

2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

人口増減率 = $(A - B) \div B$

A : 表示年を指定するで指定した年の人口

B : Aの5年前の人口

2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

本グラフについては他地域を合算することはできない。

2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する 13 市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）をまとめて推計しているため表示されない。

○総人口は一貫して減少傾向にある。

○2011年に一時的に転入数が転出数を上回っているが、

転出数は高止まりの傾向にある。

○出生数が減少する一方、死亡数は増加している。

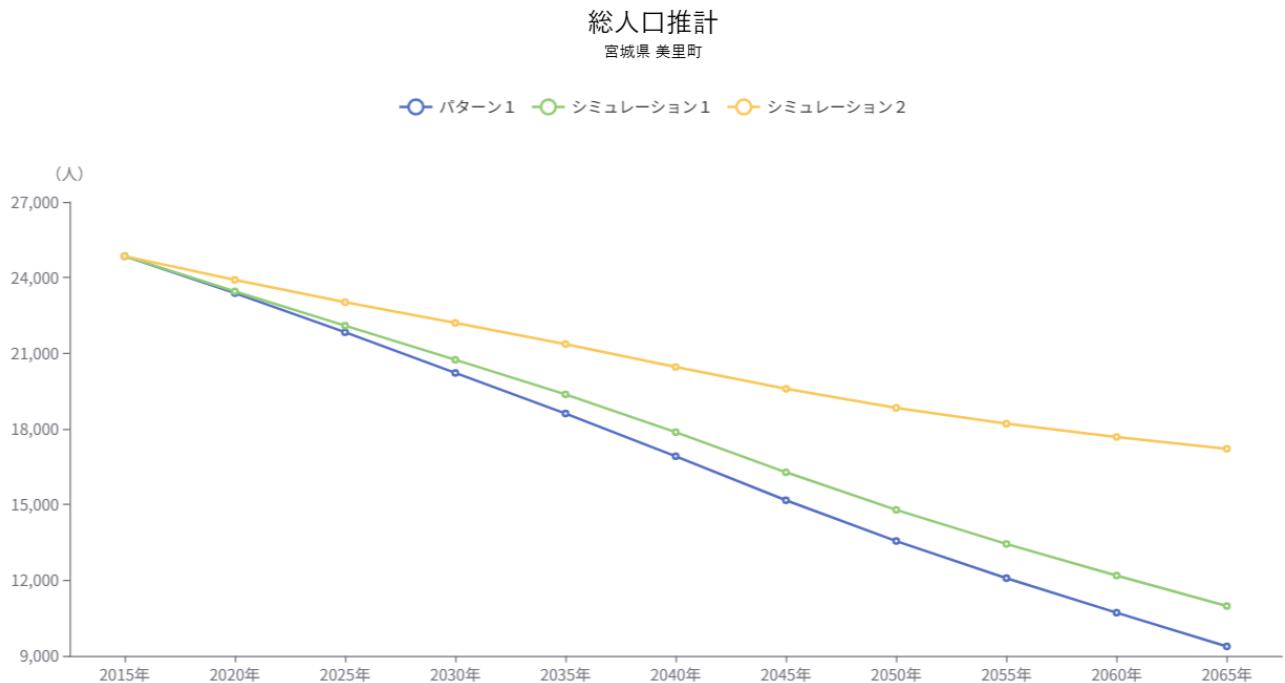
2. 将来人口推計

<用語解説>

○人口置換水準

死亡率が一定で、人口移動がない場合に、人口が長期的に増えも減りもしない状態を維持するために必要な合計特殊出生率のこと

①美里町



【出典】

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部成

【注記】

パターン1：全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

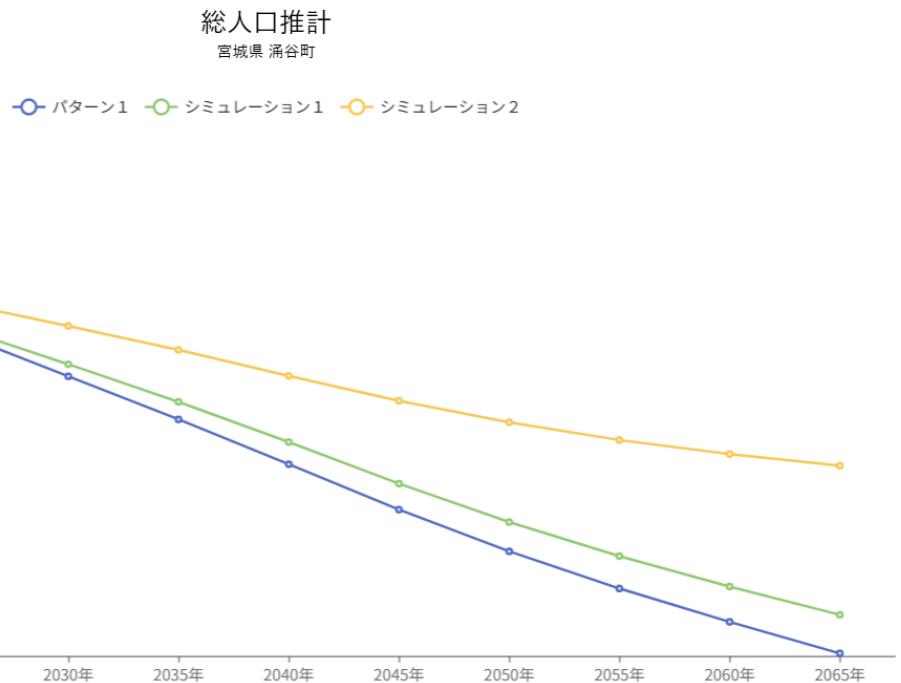
シミュレーション1：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション

シミュレーション2：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション。

【その他の留意点】+

- いずれのパターン・シミュレーションにおいても総人口の減少は止まらない。
- パターン1、シミュレーション1における差はほぼない。
- シミュレーション2の人口移動が無い場合でも人口減少に歯止めが効かないため、このままでは2060年には人口が1万人を下回る見込み。

②涌谷町



【出典】

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

【注記】

パターン1：全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠）

シミュレーション1：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション

シミュレーション2：合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.1）まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした（移動がゼロとなった）場合のシミュレーション。

【その他の留意点】+

○人口減少の速度は美里町とほぼ変わらない。

○パターン1・シミュレーションでは2065年には人口が

現在の半分以下になることが予想されるが、シミュレーション2は
同時期において12,000人弱となっている。

3. 産業構造分析

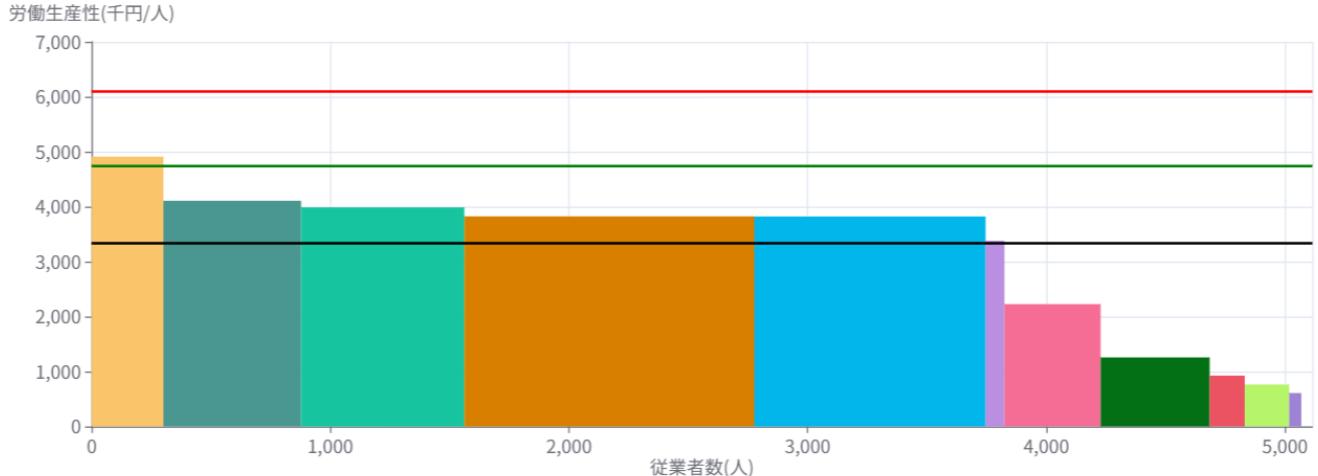
①美里町

従業者と労働生産性から見る付加価値額

宮城県美里町

2021年

- 全国の平均労働生産性
- 宮城県の平均労働生産性
- 指定地域の平均労働生産性



産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)	産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
運輸業、郵便業	4,910	301	1,478	サービス業（他に分類されないもの）	2,226	403	897
建設業	4,107	577	2,370	農林漁業	1,256	457	574
医療、福祉	3,987	684	2,727	宿泊業、飲食サービス業	925	147	136
卸売業、小売業	3,823	1,215	4,645	生活関連サービス業、娯楽業	763	186	142
製造業	3,820	969	3,702	その他	608	51	31
学術研究、専門・技術サービス業	3,380	79	267				

「その他」に含まれる産業、データを秘匿・欠測している産業

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
金融業、保険業	1,667	6	10
教育、学習支援業	467	45	21
不動産業、物品賃貸業	-	42	X
情報通信業	-	1	X
電気・ガス・熱供給・水道業	-	3	X

【出典】

総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

【注記】+

○労働生産性が最も高いのは「運輸業、郵便業」。

○「卸売業、小売業」は従業者数、付加価値額が最も高い。

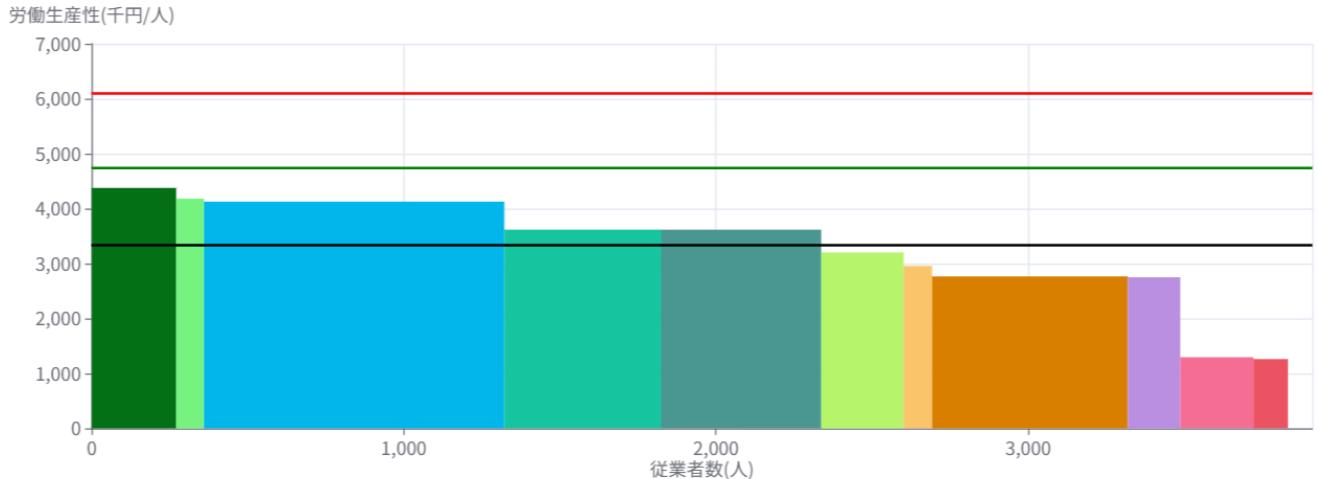
②涌谷町

従業者と労働生産性から見る付加価値額

宮城県涌谷町

2021年

- 全国の平均労働生産性
- 宮城県の平均労働生産性
- 指定地域の平均労働生産性



産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)	産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
農林漁業	4,376	271	1,186	運輸業、郵便業	2,956	91	269
教育、学習支援業	4,180	89	372	卸売業、小売業	2,766	627	1,734
製造業	4,126	962	3,969	学術研究、専門・技術サービス業	2,750	168	462
医療、福祉	3,616	502	1,815	サービス業（他に分類されないもの）	1,295	234	303
建設業	3,616	513	1,855	宿泊業、飲食サービス業	1,261	111	140
生活関連サービス業、娯楽業	3,201	264	845				

「その他」に含まれる産業、データを秘匿・欠測している産業

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
複合サービス事業	-	4	X
不動産業、物品賃貸業	-	66	X
金融業、保険業	-	8	X

【出典】

総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

【注記】+

○労働生産性が最も高いのは「農林漁業」。

○「製造業」は従業者数、付加価値額が最も高い。